



- 1 実施日時 令和元年6月5日 6時限目
- 2 実施学級 第3学年2組（文I・普通科） 41名（男子14名/女子27名）
- 3 教材 『詳説 日本史』山川出版社：『詳説 日本史図録』山川出版社 資料プリント1枚
- 4 単元名 大単元「第9章 近代国家の成立」  
中単元「開国と幕末の動乱」  
小単元「開国」

5 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、新学習指導要領の「D 近現代の地域・日本と世界 (1) 近代への転換と歴史的環境」に対応し、幕末から近代初頭の歴史の展開と、歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察する。  
 対外対策の変容と開国については、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化などに着目する。欧米諸国のアジア進出が進展する国際環境の中で、幕府の対外対策の変容をアジア諸国の動向と関連させて、日本が開国に至る経緯などを考察する。

(2) 教材の系統観

本時の学習単元は、近代の一番最初に位置している。鎖国体制から開国への流れは、近世から近代への移り変わりを分かりやすく学習できる。  
 欧米諸国発展によるアジア進出、日本へ開国を要求する外国からの使節の来航から、国外の動向を学習し、その変化に伴う開国要求であったことを理解する。また、欧米諸国と締結した条約により開国し、幕府と大名の関係性が変化していく要因になった安政の改革までを学び、次単元の条約締結によって国内で起こった問題に繋げる。

(3) 生徒観

対象生徒は第3学年普通科文系クラスである。発問にすばやく答え、自然と話し合いが起こるような雰囲気、授業に対する積極的な姿勢がみられる。既習事項と進行中の単元とを結び付けて、時代を通観視する力をつけさせたい。

(4) 方法観

(1)～(3)を踏まえて、ペリー来航後の日本の政策の変化や、幕藩体制の変化について、近世から近代にかけての転換をこれまでの既習事項を用い、様々な視点から捉えさせることが必要である。

6 単元の目標

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能力・考察力	知識・理解
・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などの近世から近代への転換期について、関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・史、資料や地図から、欧米諸国やアジア諸国の動向、日本の欧米諸国が締結した諸条約の主旨を読み取り、事象の意味や意義、関係性などを多角的・多面的に理解している。	・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などから、近世から近代への時代の転換を理解している。 ・開国後の諸改革により、明治維新への動きを生み出したことを理解し、知識を身につけている。

7.指導計画

単元「開国と幕末の動乱」全5時間

- ・開国(本時)・・・1時間
- ・開国とその影響・・・1時間
- ・公武合体と尊攘運動・・・1時間
- ・倒幕運動の展開・・・1時間
- ・幕府の滅亡/幕末の科学技術と文化・・・1時間

8本時の実態

(1) 本時の主題 「開国」

(2) 本時の目標

- ・欧米諸国のアジア進出によるアジア諸国と日本の対外政策の変化を考察し理解する。
- ・ペリー来航後の幕府の動向、幕府権力の変化を考察し理解する。

(3) 本時の評価規準

- ・開国についてアメリカと日本両方の目線から考察できる。【思考・判断・表現】
- ・幕藩体制の変化について、諸外国と幕府の動向から考察し、理解できる。【知識・理解】

(4) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習内容	指導上の留意点
導入 3分	<p>前回までの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府権力低下について振り返らせる。</li> </ul> <p>本時の目標</p> <p>開国の過程、幕藩体制の変化について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの幕府の情勢を振り返る(飢饉/一揆による財政難、幕府の弱体化)。 【知識・理解】</li> <li>・テーマを理解する。 【関心・意欲・態度】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの内容を理解できているか。</li> <li>・テーマを把握させる。</li> </ul>
展開 42分	<p>1、欧米諸国の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスで産業革命が起こり、欧米諸国は巨大な工業生産力と軍事力を備え、アジア進出。</li> <li>・アヘン戦争の後、日本は天保の薪水給与令を出す。</li> <li>・オランダ国王ウィレム2世、ピッドル、ペリー、プチャーチンの来航。</li> </ul> <p>【発問① ペリーの肖像画】</p> <p>Q1「日本人の描いたペリーの顔が天狗のようにになっているのはなぜか。」</p> <p>【発問② ペリーのおみやげ(別資料)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国がアジア進出に至った経緯を理解する。 【知識・理解】</li> <li>・アヘン戦争の結果が日本の対外政策変更にも大きく影響していることを理解する。 【知識・理解】</li> <li>・ウィレム2世、ピッドル、ペリー、プチャーチン来航の流れと日本の対応を適切に理解する。 【関心・意欲・態度】</li> <li>・隣同士で考え、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国がアジア進出を本格化した背景を理解させる。</li> <li>・アヘン戦争で負けた中国をみて、対外政策を変更したことを理解させる。</li> <li>・「泰平の眠りを覚ます上喜撰 たった四杯で夜も眠れず」の歌と、日本人の描いたペリーの肖像画から、当時の人々の心境(恐れ、不安)を考察させる。</li> </ul>

	<p>Q2 「ペリーのおみやげはなにか。」</p> <p>Q3 「ペリーがおみやげを持ってきた意図はなにか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈予想される考察〉 Q2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の技術を日本に紹介するため。</li> <li>・外国の技術を日本にみせつけるため。</li> </ul> </div> <p>Q4 「ペリーのおみやげをみた日本人はどう思ったか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈予想される考察〉 Q3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の技術に驚いた。</li> <li>・日本も真似してみたい。</li> </ul> </div> <p>→おみやげにもらった蒸気機関車を、日本人は何年後につくることができたか。</p> <p>2、開国</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日米和親条約により鎖国体制が動揺していく。</li> </ul> <p>3、安政の改革</p> <p>【発問③ 幕藩体制の変化 (別紙)】</p> <p>Q5 「安政の改革によって、幕府と藩の関係はどう変化しただろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能力重視の人材登用を行った安政の改革により諸藩の権力の発展⇨幕府権力の衰退。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物の1/4の蒸気機関車の模型に日本人は驚き、日本が欧米諸国との文明の差を実感したことを理解させる。</li> <li>・アメリカが開国を迫ろうとしたことを理解する。</li> </ul> <p>【技能力・考察力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条約の内容を理解する。</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開港した港、条約の内容が不平等なものであったことを理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改革の中心人物、目的、政策を理解する。</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問に対し考察し、プリントに図を書く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挙国的な政策が幕府の権威低下、権力分散に繋がったことを考察、表現する。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p>	<p>・ペリーのおみやげについてプリントの絵から読み取らせ、日本が欧米諸国との文明の差を実感したことを理解させる。</p> <p>・「日本も真似してみたい」という考察から、何年後に造ることができたか発問する。</p> <p>→【実例】佐賀藩が1年後に造っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・攘夷風潮の朝廷をどのように説得したかを口頭で説明する。</li> <li>・下田、箱館が現在の何県か答えさせる。</li> <li>・人材登用で藩から幕政に参画させ、意見を取り入れた点を強調する。</li> <li>・考察した図を黒板に表現させる。</li> <li>・名前を挙げた人物が、前回の藩政改革で登場していた人物だということを理解させる。(歴史の通観)</li> </ul> <p>・ペリー来航による国内の動揺、国防強化の対策の結果、幕府の権威衰退。</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国のアジア進出→ペリー来航→条約締結→安政の改革</li> <li>・幕府→権力の分散</li> </ul>	<p>・本日の流れを確認する。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p>	

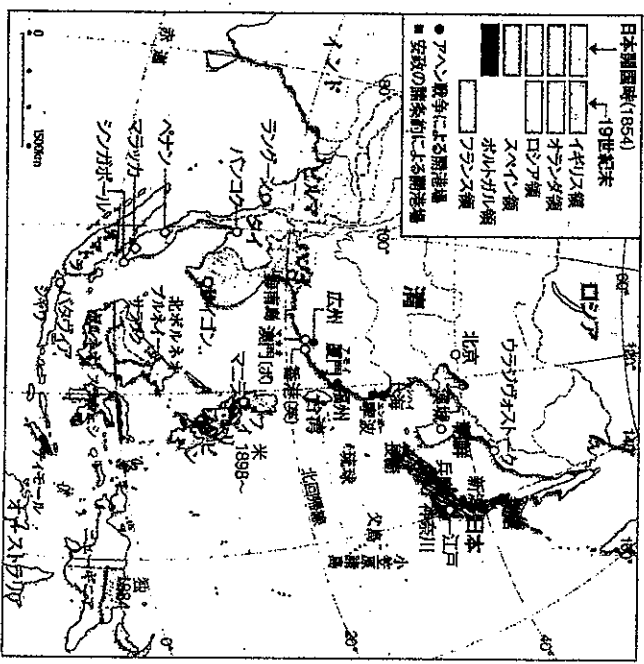
# 近代国家の成立

## 開国と幕末の動乱



18世紀後半、イギリスで最初の産業革命が始まり、工業化の波はさらにヨーロッパ各国やアメリカにおよんだ。巨大な工業生産力と軍事力を備えるに至った欧米諸国は、国外市場や原料供給地を求めて、競って植民地獲得に乗り出し、とくにアジアへの進出を本格化させた。

清国はアヘン戦争でイギリスに敗れて南京条約を結び、香港を割譲し、開国を余儀なくされた。清国の劣勢が日本に伝わると、幕府は1842(天保13)年、英艦船打私を緩和していわゆる天保の新水給与令を出し、漂着した



外国船には薪や水・食料を与えることにした。しかし1844(弘化5)年、オランダ国王が幕府に報告を送り開国を勧告しても、世界情勢の認識に乏しい幕府はこれを拒絶し、あくまでも鎖国体制を守るうとした。アメリカは、北太平洋を航海する

日本の近海に貿易船や捕鯨船の寄港地として日本の開国を強くのぞんでいた。1846(弘化3)年、アメリカ東インド艦隊司令長官ビッドルが浦賀に來航して通商を要求したが、幕府は拒絶した。アメリカが、1848年にメキシコからカリフォルニアを奪って領土を太平洋岸まで拡大すると、同国と清国との貿易はいっそうさかんになり、ますます日本の開国を必要とするようになった。

1853(嘉永6)年4月に琉球王国の那覇に寄港したアメリカ東インド艦隊司令長官ペリーは、軍艦(「黒船」)4隻を率いて6月に浦賀沖に現われ、フリルモア大統領の国書を提出して日本の開国を求めた。幕府は対策のないままペリーの強い態度におされ国書を正式に受けとり、回答を翌年に約してひつまず日本を去らせた。ついで7月には、ロシアの使節ラヂヤチンも長崎にきて、開国と国境の画定を要求した。

ペリーは翌1854(安政元)年1月、7隻の艦隊を率いてふたたび來航し、条約の締結を強硬にせまされた。幕府はその威力に屈して3月に日米和親条約を結び、(1)アメリカ船が必要とする燃料や食料などを供給すること、(2)難船や乗組員を救助すること、(3)下田・箱館の2港を開いて領事の駐在を認めること、(4)アメリカに一方的な最惠国待遇を与えることなどを取り決めた。ついで、幕府はイギリス・ロシア・オランダとも類似の内容の和親条約を結んで、20年以上にわたった鎖国政策から完全に転換した。一方、1853(嘉永6)年のペリー來航後、老中首座阿部正弘は、それまで

オランダ国王の開国勧告

……讀んで古今の時勢を通考するに、天下の民、連々相親しむものにして、其勢ハ人カの上、所に非ず。蒸氣船を創製せるにより、以來各國相親すること遠く進近きに異ならず。斯の如く互に好を運する時に當りて、鄰國を禦して万国と相親しまざるハ人の好ミする所にあらず。貴國歴代の法に異國に下事にて通く知る所なり。……是に陛下に下事に忠告する所なり。(通親一書、1853)

●一八〇七文化四年アメリカ人が浦賀に寄港し、通商を要求した。土代幕府は拒絶した。

- この条約は、東海道の宿駅である神奈川の近くで結ばれたので神奈川条約ともいう。
- 他国と結んだ条約において、日本がアメリカに与えたよりも有利な条件を認めた時は、アメリカにも自動的にその条件が認められることをいう。
- ペリーについてロシアのフチヤーチンもふたたび來航し、下田で日露和親条約を結んだ。この条約で、下田・箱館のほか長崎を加えた3港を開港し、国境については択捉島以南を日本領、道南島以北をロシア領とし、樺太は従来通り境界を定めないうことなどが約定されている。



ペリー一の横浜上陸 1854(安政元)年2月、ペリーは横浜に上陸し、会見所へ向かった。威嚇を正した500人の海兵隊と水兵が左右に整列し、日本側は会見所入口で旗のほりをもつて迎えた。図はそのありさまを描いた右版画。(横浜開港資料館蔵)

の方針をかえて朝廷への報告をおこない、諸大名や幕臣にも意見も述べさせ、**準国的**に**対策**を立てようとした。しかし、この措置は朝廷の権威を高め、諸大名の発言力を強めるもので、幕政を転換させる契機となった。また幕府は、人材を登用する●とともに、前水戸藩主徳川齊昭を幕政に参画させ、国防を充実する必要から江戸湾に台場(砲台)を築き、大船建造の禁を解くなどの改革をおこなった(安政の改革)。

### 開港と幕府の改革

日米和親条約により1856(安政3)年に下田駐在の初代アメリカ総領事として来日したハリスは、通商条約の締結を強く求めた。ハリスとの交渉に当たった老中首座堀田正睦は、条約調印の勸許を求めたが、朝廷では義夷の空気が強く、孝明天皇の勸許は得られなかった。

ところが1858(安政5)年、清国がアロー戦争の結果として、イギリス・フランスと天津条約を結ぶと、ハリスはイギリス・フランスの脅威を説いて通商条約の調印を強くせよと求めた。大老井伊直弼は勸許を得られないうまま、同年6月に日米修好通商条約の調印を断行した。

この条約には、(1)神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港●と江戸・大坂の開港●、(2)通商は自由貿易とする●こと、(3)開港場に居留地を設け、一般外国

- 越前藩主松平慶永・薩摩藩主島津吉彬・宇和島藩主伊達宗城らの協力を得た。
- 実際には神奈川は交通が頻繁な宿駅であったため、近接した横浜にかえられ、横浜開港後に下田は閉鎖された。1867(慶応3)年ようやく開港の勸許を得た兵庫も、実際には現在の神戸となった。新潟の開港は1868(明治元)年となった。

などが定められてきた。さらに、(4)日本に滞在する自国民への領事裁判権を認め(治外法権)、

(5)日本の関税についても日本に税率の決定権がなく、相互で協議して協定関税を定めた(関税自主権の欠如)不平等条約であった。幕府はついで、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも類似の条約を結んだ(安政の五カ国条約)。

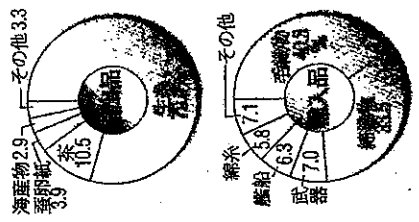
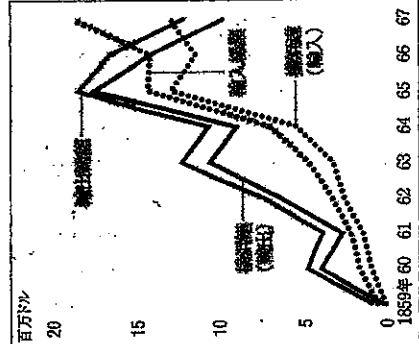
貿易は1859(安政6)年から横浜(神奈川)・長崎・箱館の3港で始まった。輸出入品の取引は、居留地において外国商人と日本商人(売込商・引取商)とのあいだで、銀貨を用いておこなわれた。輸出入額は横浜が圧倒的に多く、アメリカが南北戦争中のこともあり、イギリスとの取引が一番多かった。

日本からは、生糸・茶・養卵紙、海産物などの農水産物やその加工品が多く輸出され、毛織物・綿織物などの繊維工業製品や鉄砲・艦船などの軍需品が輸入された。貿易は大幅な輸出超過となり、それに刺激されて物価

### 日米修好通商条約

三条 下田、箱館港の外、次にいふ所の場所を左の期限より開くべし。  
 神奈川……西洋紀元千八百五十九年七月四日  
 長崎……同前  
 新潟……千八百六十年一月一日  
 兵庫……千八百六十三年一月一日  
 ……神奈川を開く後六ヶ月にして下田港は開すべし。  
 此箇条の内に載たる各地は亞墨利加人に居留を許すべし。  
 ……双方の国人、品物を売買する事概して障りなく、其私方等に付ては日本役人これに立会はず。  
 第四条 越て国地に輸入輸出の品々、別冊の通、日本役所へ運上を納むべし。  
 第六条 日本人に対し法を犯せる亞墨利加人は、亞墨利加コンシユル裁判所にて吟味の上、亞墨利加の法を以て罰すべし。亞墨利加人へ対し法を犯したる日本人は、日本役人紀の上、日本の法度を以て罰すべし。  
 (大日本古文書 幕末外国関係文書)

全14条のうち第3条は自由貿易を規定し、第4条にみえる別冊(貿易章程)では関税自主権を欠き、第6条ではコンシユル(領事)の裁判権を認め(治外法権)、アメリカ人の犯罪については、日本側で裁判がおこなえない一方的なものであった。

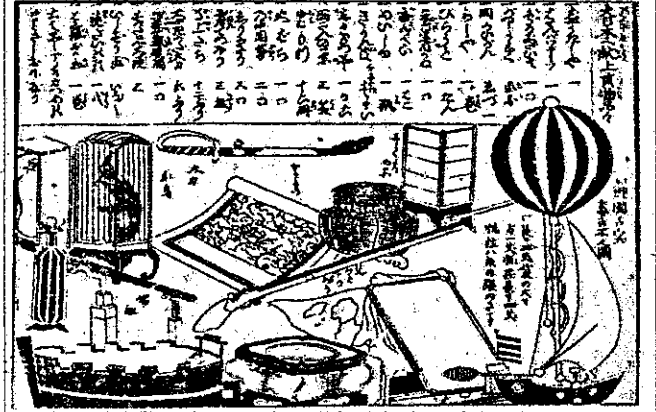


主要輸出入品の割合(1859年) 貿易の発展(石井孝「幕末貿易史の研究」より)



Q 1 左はペリーの写真、右は日本人が描いたペリーの顔。これから当時の日本人はペリーに対して、どのような印象を持ったと考えられるか。

.....  
.....



Q 2 ペリーが持ってきたおみやげはなにか。

Q 3 ペリーがおみやげを持ってきた意図はなにか。

Q 4 このおみやげを見た日本人はどう思っただろう。

Q 5 安政の改革によって幕府と藩の関係はどのように変化したらろう。図で表してみよう。

